

全国の高校生が地域活性化のアイデアを競う「2019田舎力甲子園」で、佐渡中等教育学校（佐渡市梅津）のチームが最優秀賞を受賞した。島内カフェ店の魅力発信や佐渡産食材を使ったスイーツの開発、販売に取り組んだイベントで、若い感性や現実性などが評価された。県勢初めの「優勝」に、生徒は「離島の故郷を元気にしたいという思いが伝わった。アイデアを形にする過程を学び、自信がいった」と喜ぶ。



「田舎力甲子園」で最優秀賞を受賞した佐渡中等教育学校のメンバー（佐渡市梅津）

地場産食材発信、カフェ運営 「田舎力甲子園」で最高賞

「田舎力甲子園」は、福知山公立大学（京都府）の学長らでつくる実行委員会が主催。7年目の今年は、全国から過去最高となる個人・グループ計333件の応募があった。審査基準は適合性（若い感性を生かした内容）、新規性、論理性、現実性、表現力の5項目。総合評価で順位を決めた。受賞したのは「佐渡初！高校生がカフェOPEN」として、カフェ店を紹介した「カフェエフはっしゅた〜」（当時5年生チーム）と、地産スイーツを開発・販売した「お菓子なS宴祭」（同年生チーム）の二つの企画だ。

福知山公立大で7月20日に行われた表彰式には、生徒3人が出席した。6年生の甲斐綾香さん（16）は「企画から実践まで大人の方と関わって、貴重な体験ができた。佐渡の良さを再発見できたことが収穫で、今後に生かしたい」と目を輝かす。

「中等生プロジェクト」は、18年度の総務省「ふる

若い感性 島を元気に

プリン作り、グッズ考案

島内の子どもたちが佐渡の未来を考える「佐渡を豊かにする中高生プロジェクト」の本年度の発表会が、佐渡市両津東のあいぼーと佐渡で開かれた。佐渡中等教育学校の生徒が、スイーツイベントや高齢者と若者をつないで島を元気にする地域活性化策を提案した。

佐渡青年会議所や地域おこし協力隊らでつくる市民グループ「佐渡でらこや」が7月20日に開いた。参加は「中等生プロジェクト」として取り組んでいる佐渡中等教育学校だけで、4、5年生の5グループがステージに上がった。

4年生グループ「MILK」は、親子をターゲットに「プリン」を生かした計画を発表。企業や菓子店に協力してもらい、プリン作りや食べ

企画温め 市民に提案

比ベなどを実施し、オリジナルキャラクターやグッズも考案。来年のゴールデンウィーク（GW）の開催を目指すという。

他のグループからは、中高年男性に協力してもらう企画や、合成写真やVR（バーチャルリアリティ）仮想現実を活用し、施設のお年寄りに笑顔と癒やしを与えるプランなどが出された。生徒たちはアドバイザや来場者の助言を参考に精査し、実現に向けてスケジュールを進める。

唯一の5年生グループで参加する菊池和奏さん（16）は、昨年に続いて取り組む。「昨年経験して、自分でも成長できたと思う。また挑戦したかった」と意欲的に話す。メンバーの菊池有祐さん（16）は「昨年ボランティアで参加し、交流の楽しさややりがいを感じた。地域の方の意見を取り入れながら、プランを練りたい」と語った。



住民らと意見交換し、活性化策を考える佐渡中等教育学校の生徒（佐渡市両津東）

画。希望生徒による地域創生学習「佐渡を豊かにする『中等生プロジェクト』」として、18年に取り組んだプランは市民グループ「佐渡でらこや」が主催する「佐渡を豊かにする『中等生プロジェクト』」で発表し、住民や企業の協力で具体化。それぞれ2回ずつ開き、大勢の来場者があった。生徒たちは資金集めや収益計算、広報の計画を立て、実施後には改善点をまとめた。

「さつくり大賞」でも団体さがある。激変する社会の表彰された。担当の宮崎芳中（17）で考え抜く力、新たな中教論33は「田舎力甲子園」を生み出す力を身につけた。成長してほしいと評価され、格別のうれしと語った。